令和６年農業産出額結果の概要

【徳　島　県】

～全国・四国との比較と特徴～

令和８年１月
中国四国農政局徳島県拠点

SAFF
データの力で。
農林水産統計
Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

1　徳島県の農業産出額の動向と主要部門の構成（令和６年）

- 野菜が県内農業産出額の3分の1以上を占めるなど、野菜産地としての特徴が明確であり、特に令和6年の野菜産出額は全国22位と中位の規模を維持している。
- いも類は全国7位と全国的にも存在感が高く、かんしょを中心に安定した産地を形成している。
- 農業産出額は昭和60年（1,585億円）をピークとして変動しているが、令和6年は1,092億円となり、7年ぶりに1千億円を超えた。特に、米と野菜の産出額が増加したことが全体の押し上げに寄与している。

表１　主要農産物産出額のシェアと順位（令和６年）

（単位：億円、％）

部　　門	徳島県	全　国	全国シェア	全国順位
農業産出額	1,092	107,801	1.0	33
米	162	25,524	0.6	40
麦類	x	582	x	-
豆類	0	621	0.0	45
いも類	77	2,565	3.0	7
野菜	429	25,510	1.7	22
果実	89	10,112	0.9	27
花き	36	3,423	1.1	32
畜産	282	36,654	0.8	32
肉用牛	76	7,861	1.0	27
乳用牛	33	10,035	0.3	33
豚	45	7,567	0.6	31
鶏	127	10,170	1.2	24

注１：「ｘ」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの
注２：全国値は農業総産出額

図１　部門別農業産出額の割合（令和６年）

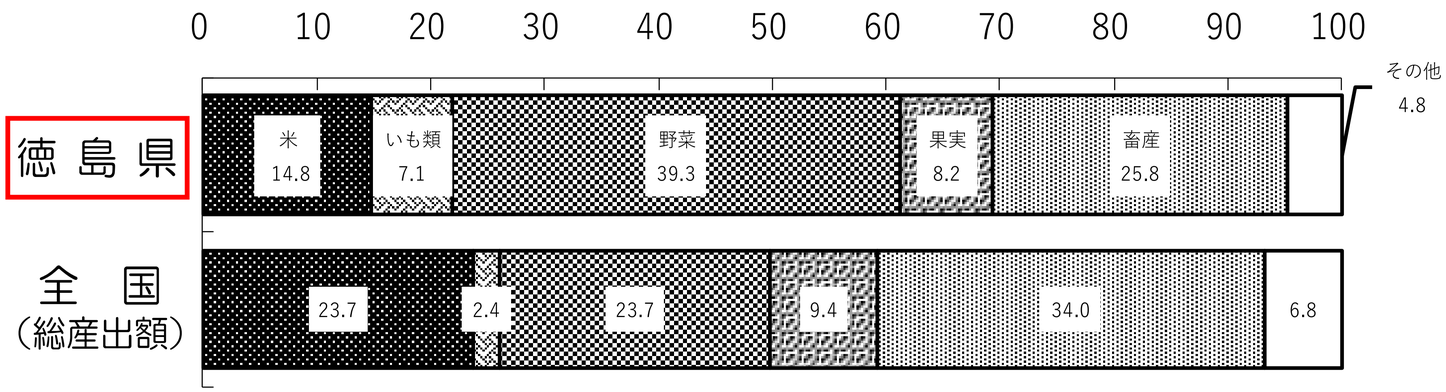
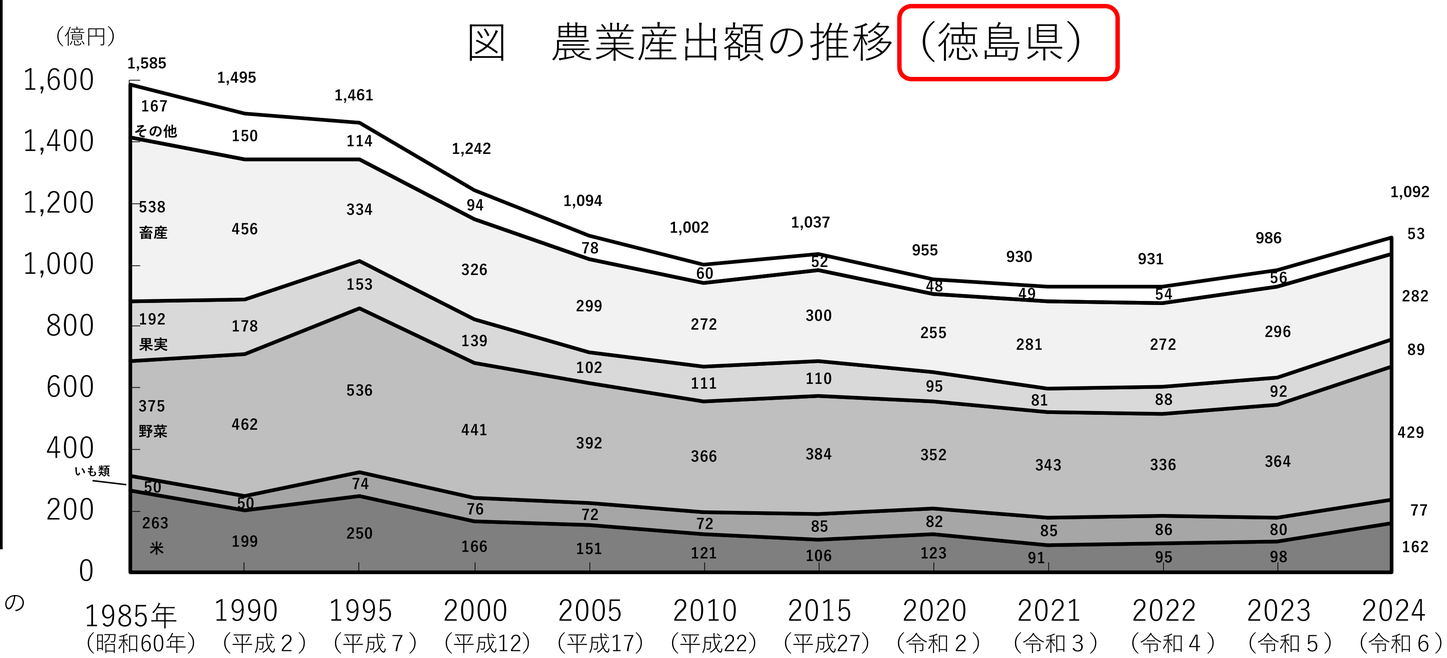


図　農業産出額の推移（徳島県）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2　主要品目の産出額順位と徳島県が強みを持つ品目（令和６年）

- 徳島県の上位10品目のうち、全国順位10位以内が4品目（にんじん、ブロイラー、かんしょ、ブロッコリー）と、特定作目で全国的にも高い競争力を持つ。
- また、すだち・洋ラン（切り花）・しろうりなど全国1位の品目に加え、にんじん・れんこん・ゆず・なばなといった全国2位の品目も有しており、徳島県ならではの特色ある農産物が産地を支えている。

表２　農業産出額上位10品目と全国順位
徳島県（令和６年）

県内順位	品目	産出額（億円）	全国順位
	計	1,092	33位
1位	米	162	40位
2位	にんじん	96	2位
3位	ブロイラー	93	10位
4位	肉用牛	76	27位
5位	かんしょ	73	5位
6位	ブロッコリー	48	5位
7位	豚	45	31位
8位	いちご	31	18位
9位	生乳	30	35位
10位	鶏卵	27	34位

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

表３　全国順位10位以内の品目別産出額と全国シェア
徳島県（令和６年）

全国順位	品目	産出額（億円）	全国シェア
1位	すだち	17	100.0%
1位	洋ラン（切り花）	5	31.3%
1位	しろうり	3	42.9%
2位	にんじん	96	15.3%
2位	れんこん	22	11.0%
2位	ゆず	8	13.8%
2位	なばな	5	12.5%
5位	かんしょ	73	6.6%
5位	ブロッコリー	48	7.6%
5位	カリフラワー	4	9.8%

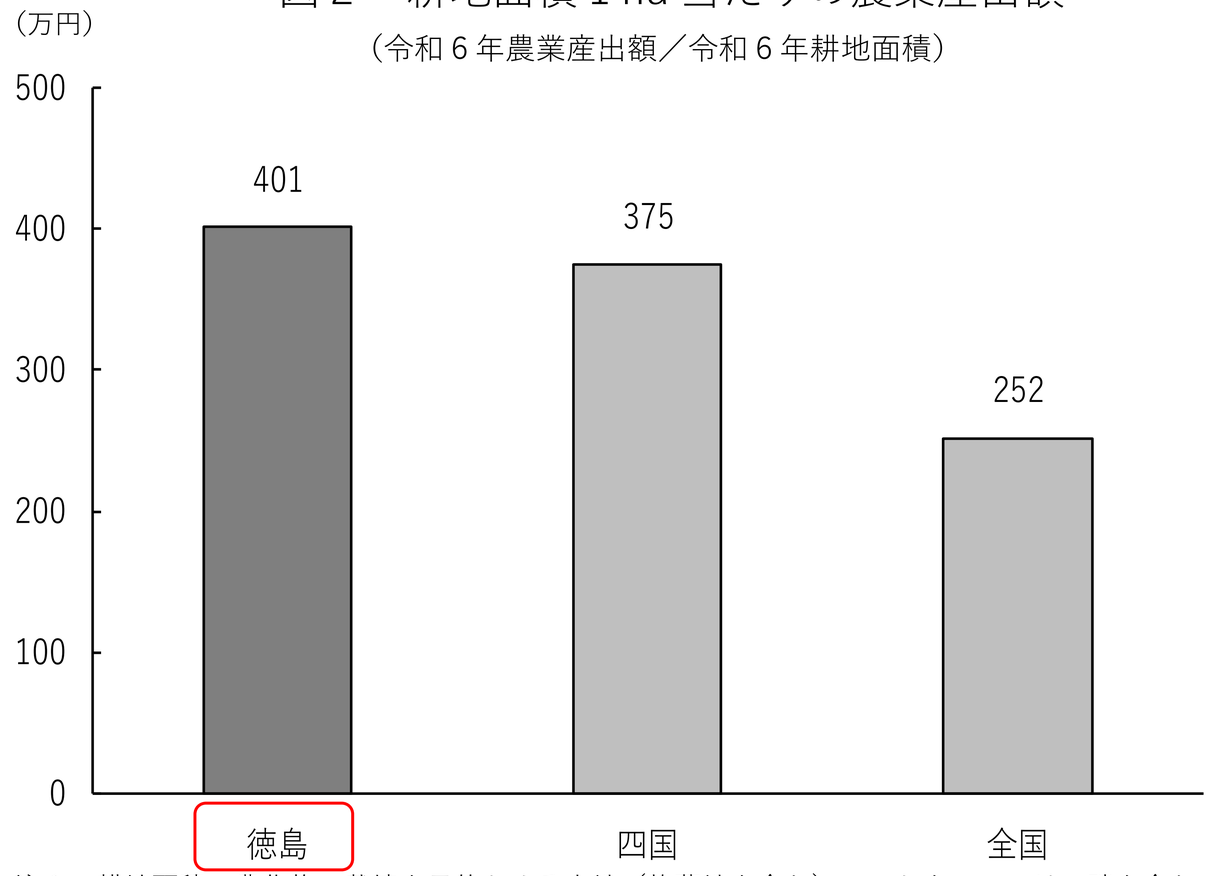
注：最大10品目を掲載

3　生産性指標からみた徳島県農業の特徴（令和６年）

- 耕地面積1ha当たりの農業産出額は徳島県401万円で、四国（375万円）や全国（252万円）を大きく上回り、生産性が高い。徳島県は野菜を中心とした集約的な土地利用が進んでいることから、耕地1ha当たりの産出額が全国平均を大きく上回っていると考えられる。
- 一方で、1農業経営体当たりの農業産出額は徳島県969万円で、四国（915万円）より高いものの、全国（1,301万円）を下回っている。これは、経営体の規模が比較的小さく、さらに品目構成が多様であることから、経営体当たりの産出額に差が生じていると考えられる。
- このことから、徳島県農業は「土地当たりの生産性は高いが、経営体当たりでは規模拡大が課題」という構造が特徴である。

図２　耕地面積１ha 当たりの農業産出額

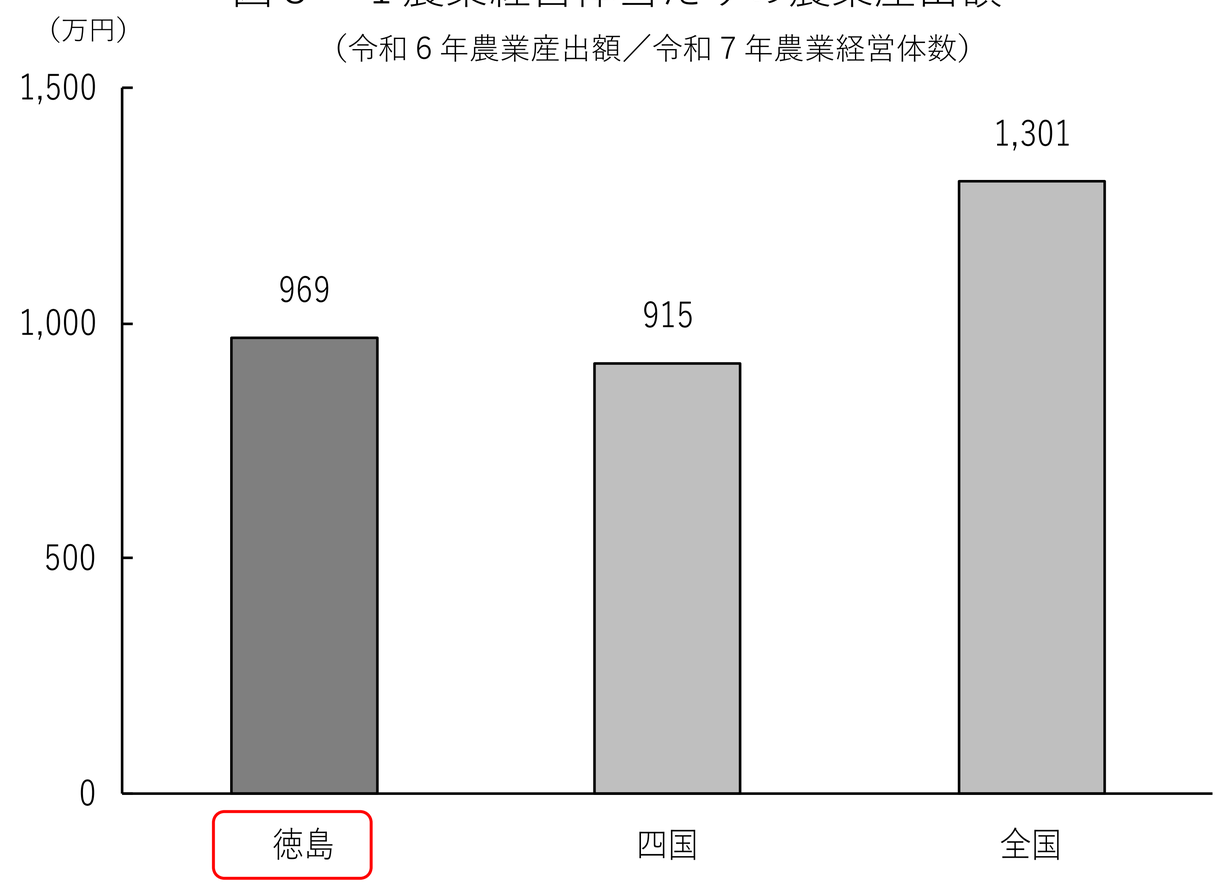
（令和６年農業産出額／令和６年耕地面積）



注１：耕地面積：農作物の栽培を目的とする土地（牧草地を含む）のことをいい、けい畔を含む。
なお、畜舎などの建築物の敷地は含まない。
注２：全国値は農業総産出額

図３　１農業経営体当たりの農業産出額

（令和６年農業産出額／令和７年農業経営体数）



注：全国値は農業総産出額

資料：農林水産省「生産農業所得統計」、「農林業センサス」、「耕地及び作付面積統計」

4　生産性指標からみた徳島県農業の特徴（累年の動向）

- 徳島県の1農業経営体当たり産出額は、昭和60年（398万円）から令和6年（969万円）までの約40年間で2倍以上に増加し、長期的に生産性が向上してきたことが分かる。
- また、直近の令和6年は前回値比47.7%増と大きく伸び、コロナ期の需要停滞が解消し、園芸作の取引が活発化したことが背景にあるとみられる。
- 一方で、農業経営体は減少しており、担い手不足や規模拡大の遅れが課題となっている。この状況は、「土地当たり生産性は高い一方で経営体規模は小さい」という県の特徴とも一致する。野菜を中心に土地当たり生産性は高いが、経営形態や品目構成が多様で規模が揃いにくく、農地の集積・集約化など構造改善が引き続き求められる。

表４　農業産出額と農業経営体数

徳島県

区分		農業産出額	農業経営体（農林業センサス）	1農業経営体当たりの農業産出額	増減率
		億円	経営体	万円	%
1985年	（昭和60）	1,585	39,831	398	―
1990	（平成２）	1,495	36,200	413	3.8
1995	（平成７）	1,461	32,537	449	8.7
2000	（平成12）	1,242	28,801	431	△ 4.0
2005	（平成17）	1,094	24,970	438	1.6
2010	（平成22）	1,002	22,046	455	3.9
2015	（平成27）	1,037	18,513	560	23.1
2020	（令和２）	955	14,568	656	17.1
2024	（令和６）	1,092	11,270	969	47.7

注１：1985年～2000年の経営体については販売農家の数値
注２：2024年の１農業経営体当たりの農業産出額は2025年農業経営体で産出
注３：増減率は５年ごと抽出（直近４年）

資料：農林水産省「生産農業所得統計」、「農林業センサス」

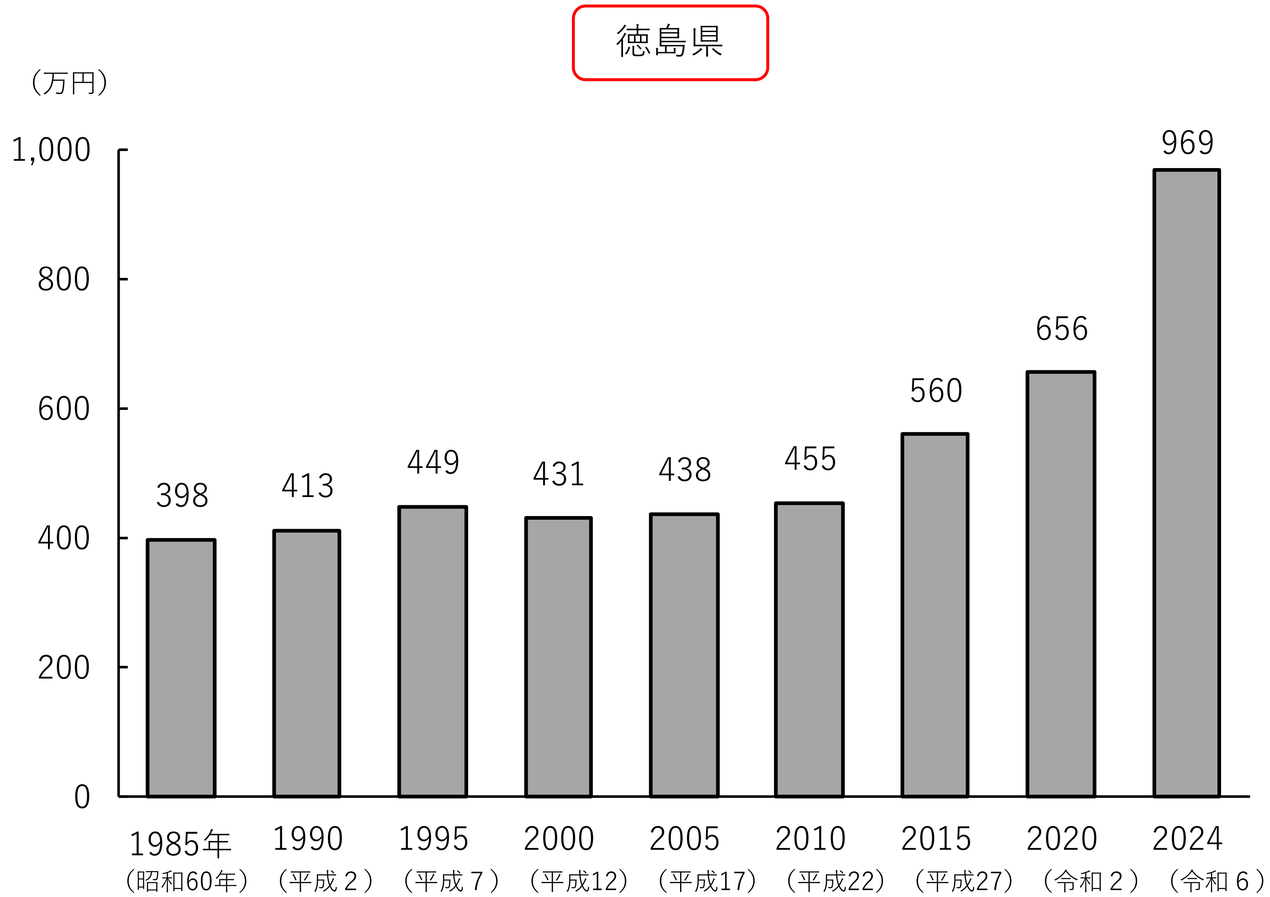



図４　１農業経営体当たりの農業産出額（累年）
（農業産出額／農業経営体数）